

校番	16	ホームルーム活動	生徒会活動	○	学校行事	別紙様式2
----	----	----------	-------	---	------	-------

令和4年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立大竹高等学校	校長	増田 隆	生徒指導主事	岡本 茂生
-----	------------	----	------	--------	-------

取組事例名 『第73回大竹高等学校体育祭』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「協調性・協働する力」	1	「多様性に対する適応力」	3	「自己理解・自らの自信」	2

取組のねらい

- 集団での所属感や帰属意識の醸成と公共の精神を育成する
- 与えられた役割を精一杯やり遂げることで成就感・達成感を味わう
- 学年・クラスの集団において他者を理解するとともに連帯する意識を深める

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『生徒の主体性』
----------	---------------------

<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会執行部を中心に、密にならない大会の運営について、教職員と協議を行った。 ○ 感染対策を念頭において各競技の内容を見直し、リレー競技のバトンの変更や手袋を使用してのフォークダンスなどを実施した ○ 教職員とともに取り組む参加型大会を企画 ○ ダンス部によるパフォーマンス ○ 生徒会中心の運営競技 ○ 縦割り集団での競技（ザ・がまん 栄光への架け橋）を採択 ○ 3学年によるフォークダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会によるキャッチフレーズの作成 ○ 縦割り集団の応援方法の工夫 ○ 各部活動生徒の役割を明確にし、責任を持って大会運営に参画 ○ 困難に耐えることを体現する種目の選定 ○ 積極的感染予防対策（手袋使用） ○ 事前準備から片付けまで生徒全員が責任を持って取り組んだ ○ 怪我を防ぐために補助員の増員 ○ 招集をスムーズに行うために種目ごとのチーム責任者の明確化
--	--



取組の成果と課題

- コロナ禍に入学してきた生徒たちには、集団での活動や協働・協力する場面である学校行事に制約をかけてきた。感染防止のガイドラインに沿う中で時間・種目内容・形式等最大限の工夫をして縮小実施した結果、肯定的評価が97%に上がり、生徒たちの責任感・達成感・協調性の充実につながっている。
- 実施を見送る場合の代替え案を企画しておくことが課題である。